

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料	食肉加工品、牛乳・乳製品、食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ、マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯、包装もち	調理缶・びん詰、レトルト食品
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 602 社
調査時期	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	309 社 (回答率約 51.3%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 22 年であり、基準数量は対象品目ごとの 22 年月平均生産数量である。指数値は 22 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	± 1 %未満
わずかに	：	± 1 ～ 3 %未満
やや	：	± 3 ～ 6 %未満
かなりの程度	：	± 6 ～ 11 %未満
かなり大きく	：	± 11 ～ 16 %未満
大幅に	：	± 16 %以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

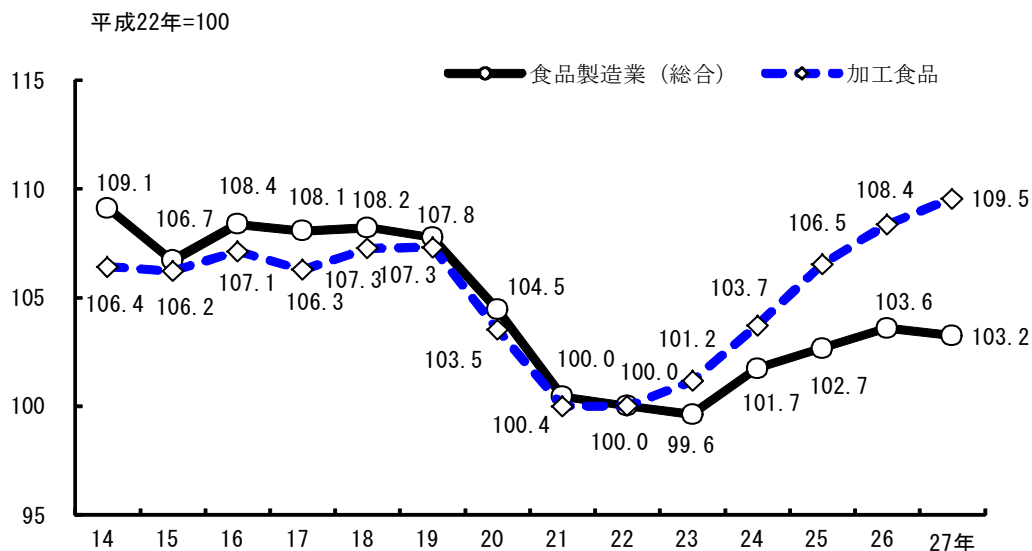
平成27年の食品製造業（総合）の生産指数は103.2で、対前年比▲0.3%と前年並み

平成27年の食品製造業（総合）の生産指数（平成22年=100、暫定値）は103.2で、対前年比▲0.3%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は109.5で、対前年比1.1%とわずかに上昇した。

食品製造業（総合）の生産指数は、平成20年の世界的な経済不況、平成23年の東日本大震災後、上昇で推移し回復していたが、平成26年から27年にかけては横這いで推移している。平成27年は製穀粉・同加工品、菓子、調理食品が対前年比でプラスに寄与している。一方、飲料、酒類は対前年比でマイナスに寄与している。

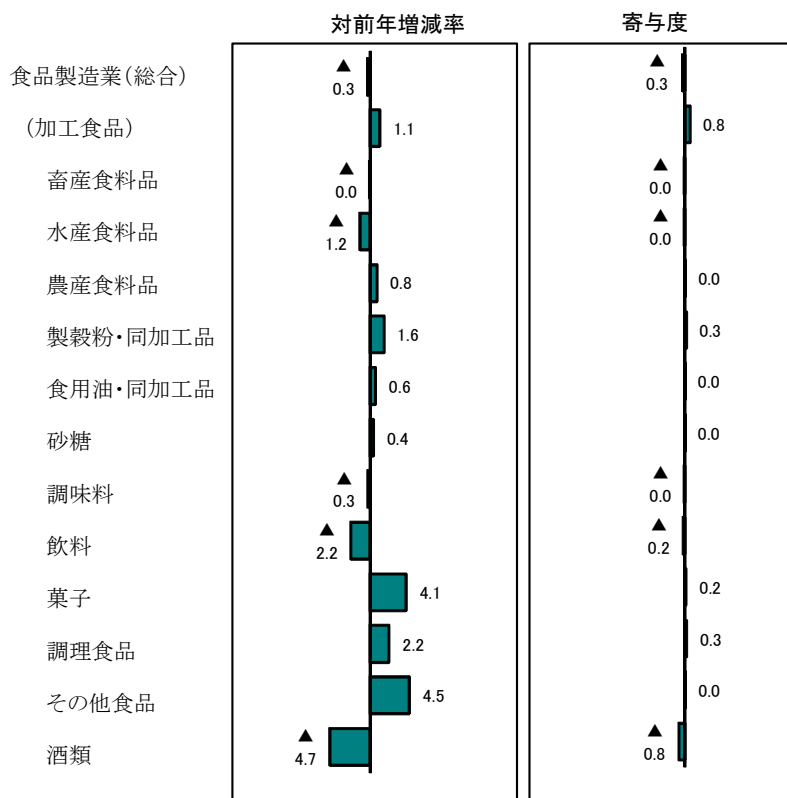
分野別にみると、菓子及びその他食品が対前年比でやや上昇し、製穀粉・同加工品及び調理食品がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、水産食料品及び飲料がわずかに低下した。また、畜産食料品、農産食料品、食用油・同加工品、砂糖及び調味料は前年並みとなった。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	102.7	103.6	103.2	▲ 0.4	0.9	0.9	▲ 0.3	▲ 0.3
(加工食品)	6,755.5	100.0	106.5	108.4	109.5	0.0	2.7	1.7	1.1	0.8
畜産食料品	1,581.5	100.0	103.6	102.9	102.9	▲ 0.5	0.9	▲ 0.6	▲ 0.0	▲ 0.0
水産食料品	321.0	100.0	94.7	106.3	105.1	3.4	▲ 2.7	12.3	▲ 1.2	▲ 0.0
農産食料品	451.3	100.0	86.0	84.5	85.2	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.6	0.8	0.0
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	103.8	105.5	107.1	0.9	2.2	1.6	1.6	0.3
食用油・同加工品	360.2	100.0	111.5	113.1	113.8	▲ 4.6	6.8	1.4	0.6	0.0
砂糖	19.5	100.0	97.9	96.4	96.7	1.5	0.1	▲ 1.5	0.4	0.0
調味料	865.0	100.0	102.9	103.0	102.7	▲ 1.3	0.8	0.0	▲ 0.3	▲ 0.0
飲料	1,214.6	100.0	97.2	95.1	93.0	▲ 3.7	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.2
菓子	490.4	100.0	97.5	99.4	103.5	0.7	▲ 2.3	1.9	4.1	0.2
調理食品	984.0	100.0	136.1	142.3	145.4	1.3	11.4	4.6	2.2	0.3
その他食品	105.0	100.0	94.3	95.8	100.1	2.0	▲ 0.1	1.6	4.5	0.0
酒類	2,029.9	100.0	93.1	92.7	88.4	0.1	▲ 4.0	▲ 0.4	▲ 4.7	▲ 0.8

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

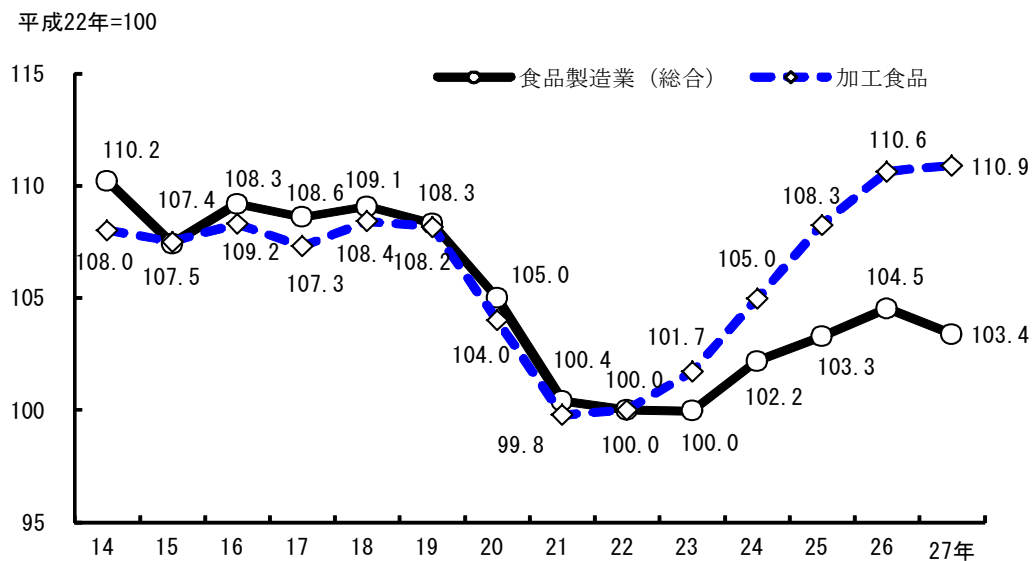
(2) 出荷指数

平成27年の食品製造業（総合）の出荷指数は103.4で、対前年比▲1.1%とわずかに低下

平成27年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成22年=100）は103.4で、対前年比▲1.1%とわずかに低下した。うち、加工食品の出荷指数（平成22年=100）は110.9で、対前年比0.2%と前年並みとなった。食品製造業（総合）の出荷指数は製穀粉・同加工品、菓子、調理食品及びその他食品が対前年比でプラスに寄与し、一方、畜産食料品、水産食料品、飲料及び酒類が対前年比でマイナスに寄与している。

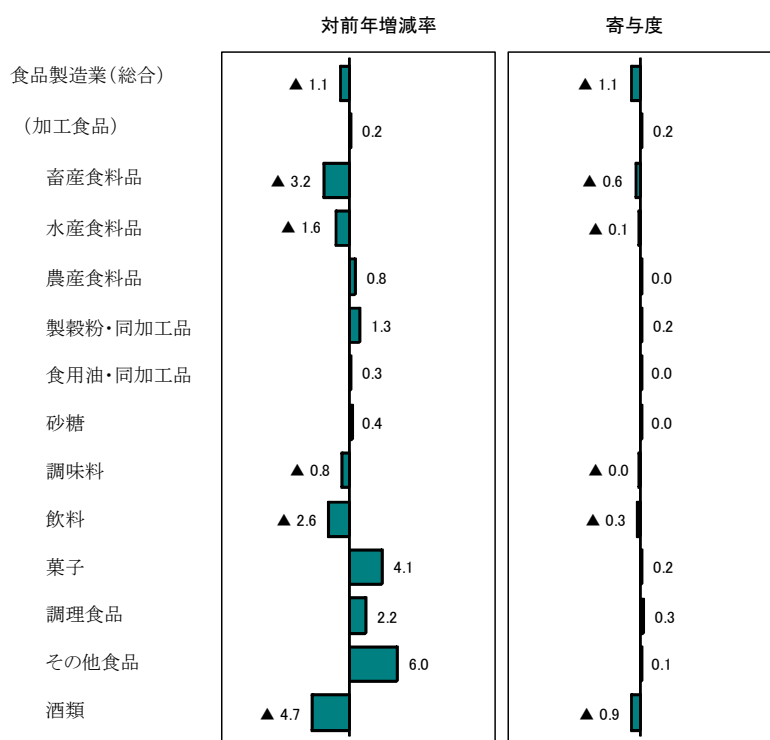
分野別にみると、菓子及びその他食品が対前年比でやや上昇し、製穀粉・同加工品及び調理食品がわずかに上昇した。一方、畜産食料品及び酒類が対前年比でやや低下し、水産食料品及び飲料がわずかに低下した。また、農産食料品、食用油・同加工品、砂糖及び調味料は前年並みとなった。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	27/26年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	103.3	104.5	103.4	▲ 0.4	1.1	1.2	▲ 1.1	▲ 1.1
(加工食品)	6,390.0	100.0	108.3	110.6	110.9	0.2	3.1	2.2	0.2	0.2
畜産食料品	1,787.7	100.0	107.3	106.7	103.3	▲ 0.2	1.6	▲ 0.6	▲ 3.2	▲ 0.6
水産食料品	362.8	100.0	94.7	106.5	104.8	3.4	▲ 2.8	12.5	▲ 1.6	▲ 0.1
農産食料品	334.2	100.0	86.0	84.5	85.2	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.6	0.8	0.0
製穀粉・同加工品	1,423.3	100.0	103.5	105.6	107.0	1.0	2.0	2.0	1.3	0.2
食用油・同加工品	407.1	100.0	111.5	113.1	113.4	▲ 4.9	6.7	1.4	0.3	0.0
砂糖	22.1	100.0	97.9	96.4	96.7	1.5	0.1	▲ 1.5	0.4	0.0
調味料	267.6	100.0	94.6	97.3	96.5	▲ 0.7	▲ 2.0	2.9	▲ 0.8	▲ 0.0
飲料	1,315.6	100.0	96.7	95.5	93.0	▲ 4.1	▲ 0.9	▲ 1.3	▲ 2.6	▲ 0.3
菓子	554.3	100.0	97.5	99.4	103.5	0.7	▲ 2.3	1.9	4.1	0.2
調理食品	1,112.3	100.0	136.1	142.3	145.4	1.3	11.4	4.6	2.2	0.3
その他食品	118.6	100.0	94.6	95.5	101.2	1.4	▲ 0.6	1.0	6.0	0.1
酒類	2,294.4	100.0	93.1	92.7	88.4	0.1	▲ 4.0	▲ 0.4	▲ 4.7	▲ 0.9

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

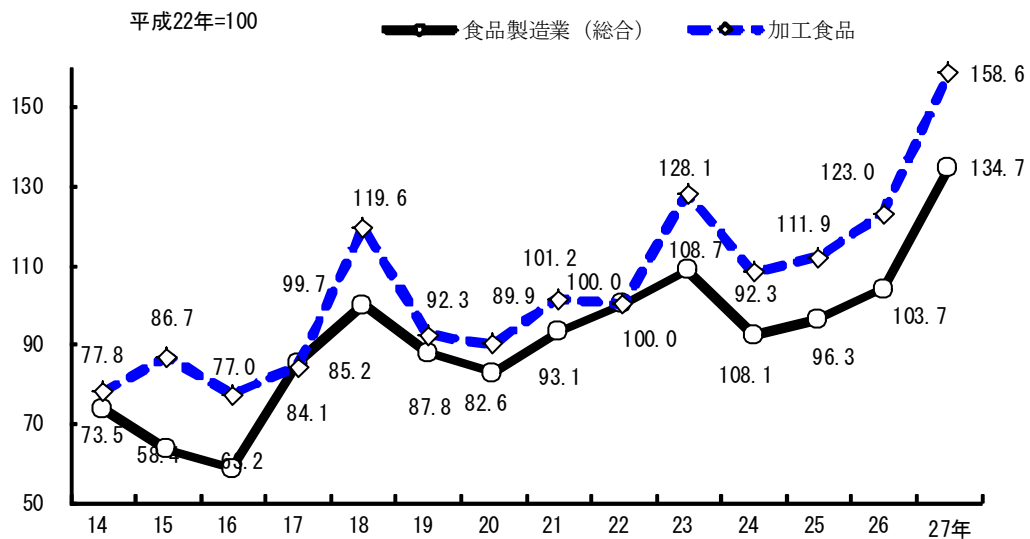
(3) 在庫指数

平成27年の食品製造業（総合）の在庫指数は134.7で、対前年比29.9%と大幅に上昇

平成27年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成22年=100）は134.7で、対前年比29.9%と大幅に上昇した。うち、加工食品の在庫指数（平成22年=100）も158.6で、対前年比29.0%と大幅に上昇した。

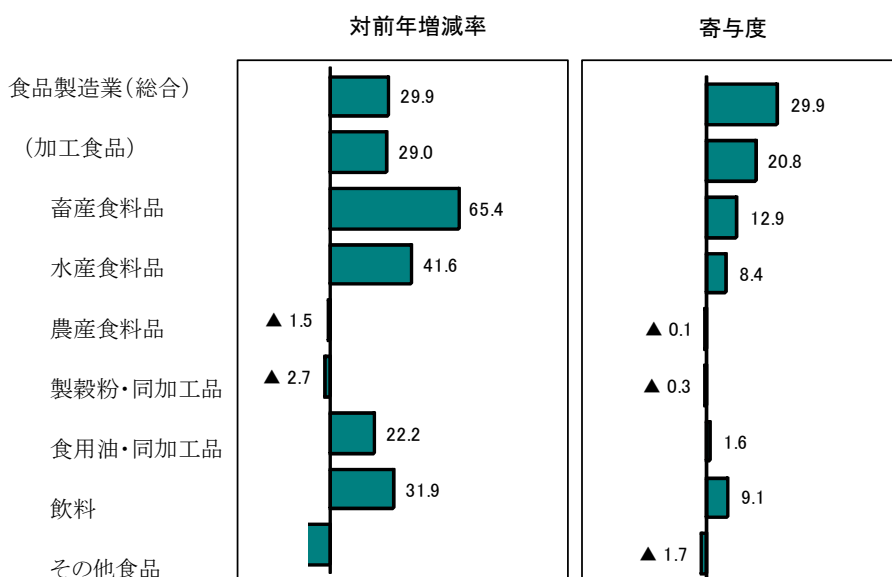
分野別にみると、畜産食料品、水産食料品、食用油・同加工品及び飲料が対前年比で大幅に上昇した。一方、その他食品が対前年比で大幅に低下し、農産食料品及び製穀粉・同加工品がわずかに低下した。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	27/26年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	96.3	103.7	134.7	7.4	4.3	7.8	29.9	29.9
(加工食品)	6,034.3	100.0	111.9	123.0	158.6	▲ 1.2	3.5	9.8	29.0	20.8
畜産食料品	1,455.0	100.0	130.8	140.7	232.6	▲ 14.1	23.0	7.6	65.4	12.9
水産食料品	1,605.0	100.0	145.4	130.1	184.2	15.3	15.8	▲ 10.5	41.6	8.4
農産食料品	1,001.5	100.0	47.6	95.5	94.1	15.6	▲ 55.1	100.6	▲ 1.5	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	794.7	100.0	107.2	130.6	127.0	▲ 21.8	20.0	21.8	▲ 2.7	▲ 0.3
食用油・同加工品	716.1	100.0	107.0	104.4	127.6	▲ 2.4	▲ 0.2	▲ 2.4	22.2	1.6
飲料	3,965.7	100.0	72.4	74.5	98.3	23.8	6.1	2.9	31.9	9.1
その他食品	462.2	100.0	91.4	117.3	79.2	13.8	▲ 0.3	28.3	▲ 32.5	▲ 1.7

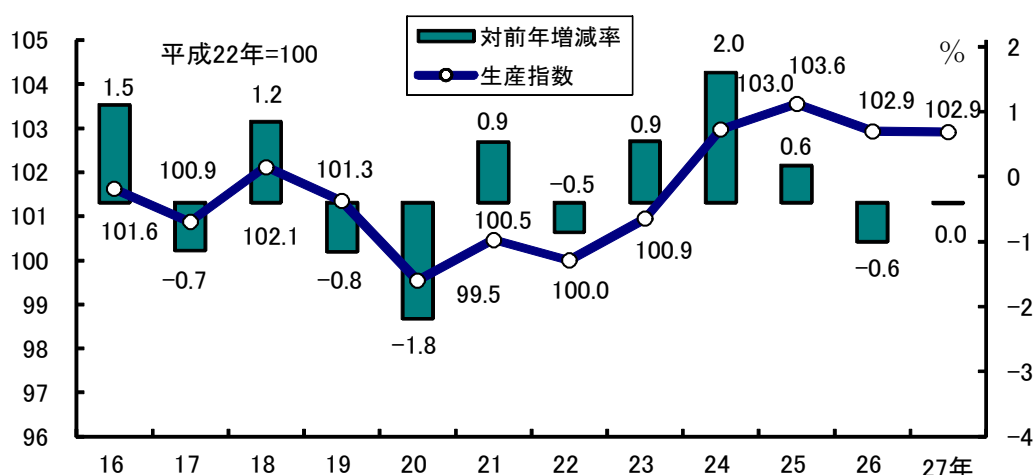
注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

平成27年の畜産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は102.9で、対前年比0.0%と前年並みとなった。平成22年以降上昇傾向で推移していたが、平成25年以降は横ばいで推移している。特に乳製品が対前年比でプラスに寄与したものの、食肉加工品がマイナスに寄与している。

品目別にみると、食肉缶・びん詰が対前年比でかなりの程度上昇し、はっ酵乳・乳酸菌飲料及び乳製品がやや上昇した。一方、アイスクリームが対前年比でかなりの程度低下し、食肉加工品及び乳飲料がわずかに低下した。また、飲用牛乳は前年並みとなった。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに低下、ハム類及びソーセージ類がわずかに低下、ベーコン類はわずかに上昇

食肉加工品の生産量は53万トンで、生産指数は対前年比▲1.2%とわずかに低下した。内訳についてみると、ハム類の生産量は10万4千トンで、生産指数は対前年比▲1.2%とわずかに低下、ベーコン類については生産量が8万9千トンで、生産指数は対前年比1.8%とわずかに上昇、ソーセージ類については生産量が30万7千トンで、生産指数は対前年比▲2.0%でわずかに低下した。

飲用牛乳は前年並み、乳飲料はわずかに低下、はっ酵乳・乳酸菌飲料はやや上昇

飲用牛乳の生産量は300万5千klで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。また、乳飲料は130万5千klで、生産指数は対前年比▲1.9%でわずかに低下した。一方、はっ酵乳・乳酸菌飲料は176万1千klで、生産指数は対前年比3.4%とやや上昇した。

乳製品はやや上昇、特にチーズがかなり大きく上昇

乳製品の生産指数は103.0で対前年比1.1%とわずかに上昇した。内訳についてみると、チーズの生産量は14万2千トンで、生産指数は対前年比12.1%とかなり大きく上昇した。

脱脂粉乳の生産量は12万9千トンで、生産指数は対前年比7.3%とかなりの程度上昇した。また、バターについても6万5千トンで、生産指数は対前年比6.7%とかなりの程度上昇した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

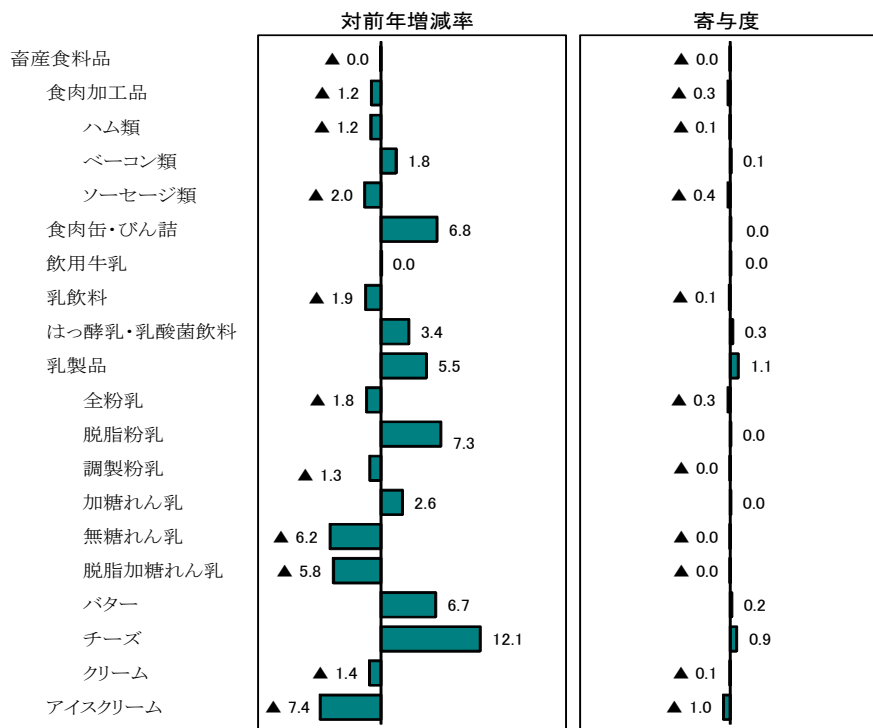


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

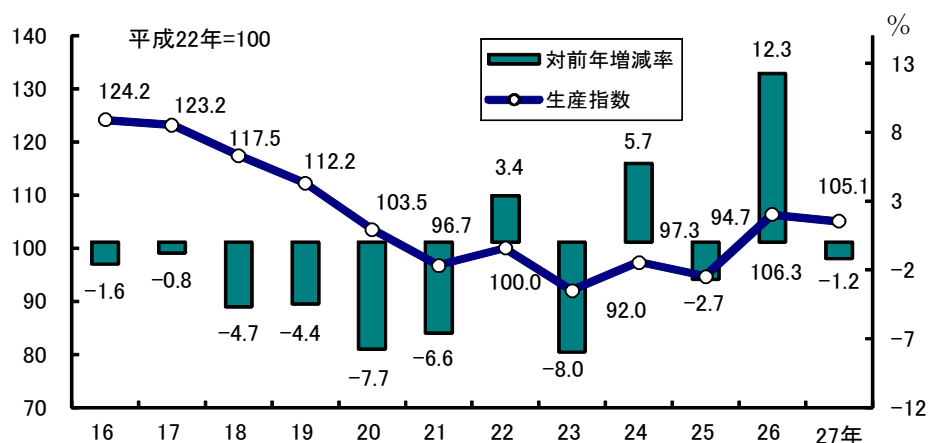
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
畜産食料品	1,581.5	100.0	103.6	102.9	102.9	▲ 0.5	0.6	▲ 0.6	▲ 0.0	▲ 0.0
食肉加工品	457.8	100.0	105.0	106.0	104.8	▲ 0.9	1.0	1.0	▲ 1.2	▲ 0.3
ハム類	99.1	100.0	103.9	102.7	101.5	▲ 2.2	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 0.1
ベーコン類	77.7	100.0	107.3	107.3	109.3	▲ 0.5	0.5	0.0	1.8	0.1
ソーセージ類	280.9	100.0	104.7	106.9	104.8	▲ 0.5	1.7	2.0	▲ 2.0	▲ 0.4
食肉缶・びん詰	1.5	100.0	111.0	207.9	222.1	▲ 0.7	16.1	87.3	6.8	0.0
飲用牛乳	370.8	100.0	93.6	92.2	92.3	▲ 1.5	▲ 2.2	▲ 1.4	0.0	0.0
乳飲料	103.5	100.0	112.8	109.8	107.8	2.1	2.9	▲ 2.7	▲ 1.9	▲ 0.1
はっ酵乳・乳酸菌飲料	122.7	100.0	118.2	118.6	122.6	1.3	3.3	0.3	3.4	0.3
乳製品	334.2	100.0	100.8	97.6	103.0	▲ 1.3	▲ 1.2	▲ 3.1	5.5	1.1
全粉乳	334.2	100.0	81.2	91.1	89.5	5.5	▲ 13.5	12.2	▲ 1.8	▲ 0.3
脱脂粉乳	7.5	100.0	87.6	77.0	82.6	▲ 7.0	▲ 1.6	▲ 12.1	7.3	0.0
調製粉乳	35.3	100.0	69.6	80.9	79.9	▲ 5.6	▲ 4.2	16.3	▲ 1.3	▲ 0.0
加糖れん乳	8.2	100.0	95.1	93.2	95.6	▲ 7.5	▲ 8.6	▲ 2.1	2.6	0.0
無糖れん乳	0.2	100.0	71.0	70.9	66.5	1.3	▲ 6.1	▲ 0.2	▲ 6.2	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.0	100.0	89.2	88.6	83.4	▲ 15.9	▲ 17.7	▲ 0.7	▲ 5.8	▲ 0.0
バター	53.2	100.0	92.8	82.5	88.0	▲ 8.8	▲ 1.0	▲ 11.0	6.7	0.2
チーズ	119.5	100.0	106.6	101.6	113.8	2.3	▲ 1.4	▲ 4.7	12.1	0.9
クリーム	106.3	100.0	106.0	109.5	108.0	1.9	0.4	3.3	▲ 1.4	▲ 0.1
アイスクリーム	191.1	100.0	109.8	110.9	102.7	1.5	4.1	0.9	▲ 7.4	▲ 1.0

2 水産食料品

平成27年の水産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は105.1で、対前年比▲1.2%とわずかに低下した。ちくわ・かまぼこ類の低下が影響している。

品目別にみると、水産缶・びん詰がかなりの程度上昇した。一方、水産練製品（ちくわ・かまぼこ類）はわずかに低下した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はわずかに低下、水産缶・びん詰はかなりの程度上昇

ちくわ・かまぼこ類の生産量は51万3千トンで、生産指数は対前年比▲2.8%とわずかに低下した。また、水産缶・びん詰の生産量は9万8千トンで、生産指数は対前年比6.2%とかなりの程度上昇した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

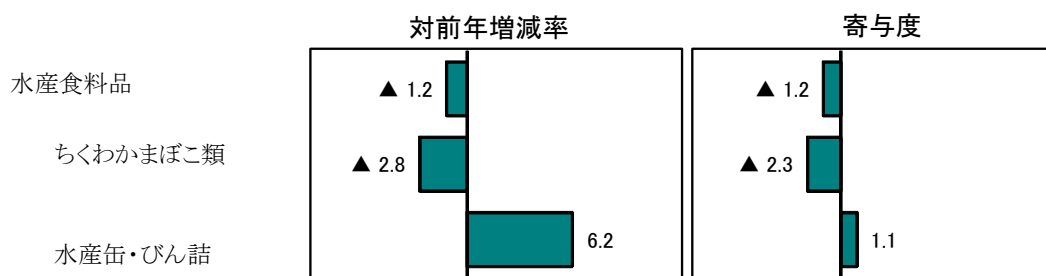


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

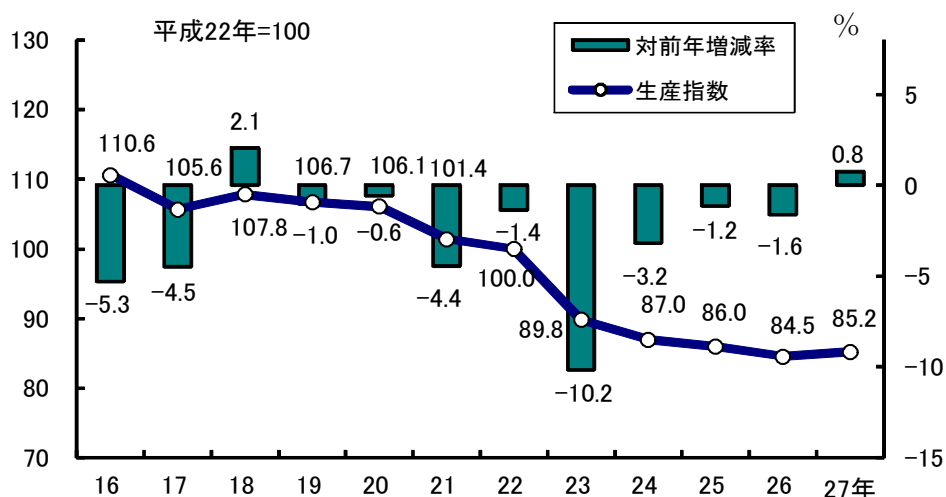
品目	年次 ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
水産食料品	321.0	100.0	94.7	106.3	105.1	3.4	▲2.7	12.3	▲1.2	▲1.2
ちくわかまぼこ類	249.5	100.0	99.7	112.6	109.5	6.6	▲1.5	12.9	▲2.8	▲2.3
水産缶・びん詰	71.5	100.0	77.3	84.5	89.7	▲6.4	▲7.7	9.3	6.2	1.1

3 農産食料品

平成 27 年の農産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 85.2 で、対前年比 0.8 %と前年並みとなった。

品目別にみると、漬物はわずかに上昇した。一方、農産缶・びん詰はやや低下した。また、乾燥野菜及びトマト加工品は前年並みとなった。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



漬物はわずかに上昇

漬物の生産量は 72 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 2.5 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 10 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 8.4 %とかなりの程度上昇、酢漬類の生産量は 7 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 6.0 %とかなりの程度の上昇となった。また、浅漬の生産量は 13 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 13.3 %とかなり大きく上昇した。一方、醤油漬は 31 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲ 2.0 %とわずかに低下した。

農産缶・びん詰はやや低下

農産缶・びん詰の生産量は 12 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.1 %とやや低下した。内訳についてみると、野菜缶が 2 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 12.4 %とかなり大きく低下した。近年、加工野菜の消費については多様化しており、レトルトや冷凍、カット野菜での消費、また紙パックでの野菜ジュースの浸透等も野菜缶の減少に影響しているとみられる。またジャムびんの生産量は 2 万トンで、生産指数は対前年比▲ 5.4 %とやや低下した。一方、果実缶は 8 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 1.7 %とわずかに上昇した。

トマト加工品は前年並み

トマト加工品の生産量は 10 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.3 %と前年並みとな

った。トマトケチャップ及びトマトピューレは前年並みであったが、その他トマトが前年を下回り、全体では前年並みとなった。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

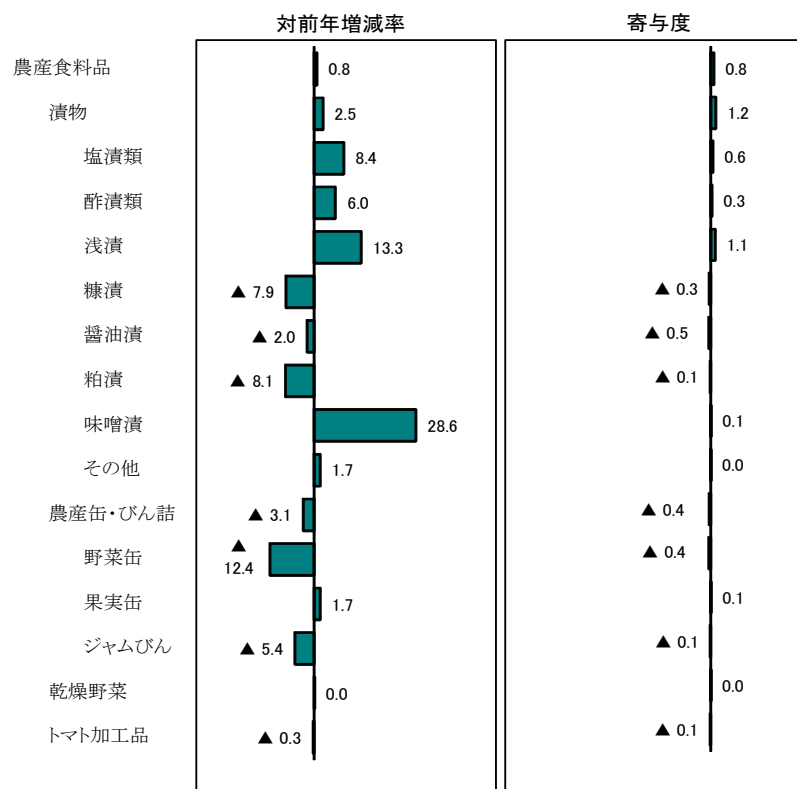


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

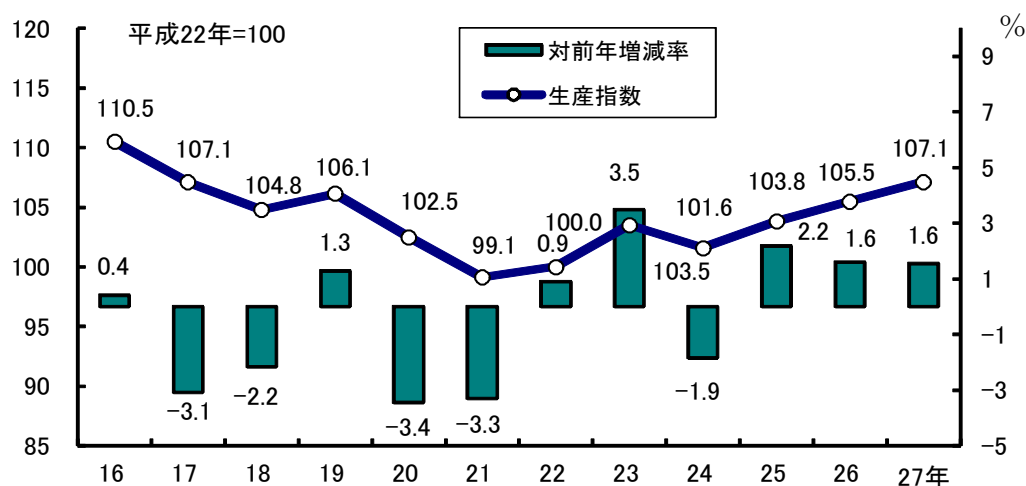
品目	年次	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
			22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
農産食料品		451.3	100.0	86.0	84.5	85.2	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.6	0.8	0.8
漬物		234.3	100.0	82.4	80.8	82.8	▲ 4.1	0.0	▲ 1.9	2.5	1.2
塩漬類		36.0	100.0	73.8	74.8	81.0	1.6	1.0	1.3	8.4	0.6
酢漬類		26.5	100.0	71.8	71.5	75.8	▲ 0.4	▲ 8.6	▲ 0.5	6.0	0.3
浅漬		41.7	100.0	70.5	76.3	86.4	▲ 0.3	7.3	8.2	13.3	1.1
糠漬		20.0	100.0	72.0	67.6	62.3	▲ 10.0	2.6	▲ 6.0	▲ 7.9	▲ 0.3
醤油漬		96.2	100.0	95.2	90.8	89.1	▲ 8.1	▲ 0.1	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 0.5
粕漬		9.2	100.0	73.8	73.1	67.2	6.4	▲ 7.6	▲ 0.9	▲ 8.1	▲ 0.1
味噌漬		2.0	100.0	91.9	79.2	101.9	▲ 1.7	▲ 6.6	▲ 13.8	28.6	0.1
その他		2.7	100.0	124.4	88.9	90.5	▲ 5.5	▲ 0.9	▲ 28.5	1.7	0.0
農産缶・びん詰		61.3	100.0	76.4	75.7	73.4	3.7	▲ 7.3	▲ 0.9	▲ 3.1	▲ 0.4
野菜缶		28.2	100.0	50.8	45.0	39.4	▲ 2.4	▲ 27.3	▲ 11.3	▲ 12.4	▲ 0.4
果実缶		22.8	100.0	114.8	121.6	123.7	15.9	15.5	5.9	1.7	0.1
ジャムびん		10.3	100.0	61.6	58.2	55.0	▲ 2.5	▲ 22.3	▲ 5.6	▲ 5.4	▲ 0.1
乾燥野菜		14.2	100.0	52.6	51.6	51.6	▲ 3.6	▲ 18.9	▲ 2.0	0.0	0.0
トマト加工品		141.5	100.0	99.4	97.9	97.6	1.4	0.6	▲ 1.5	▲ 0.3	▲ 0.1

4 製穀粉・同加工品

平成 27 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 107.1 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。平成 24 年の以降、上昇傾向で推移しており、平成 27 年は対前年比で特に製穀粉の上昇が寄与している。

品目別にみると、製穀粉がやや上昇し、めん類、パン類及びパン粉はわずかに上昇した。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製穀粉はやや上昇

製穀粉の生産量は 46 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 5.0 %とやや上昇した。プレミックスが 0.9 %と前年並みだったものの、米穀粉が 6.8 %とかなりの程度上昇した。

めん類はわずかに上昇、即席めんは前年並み

めん類の生産量は 139 万トンで、生産指数は対前年比 1.1 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、生めん類の生産量は 62 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 8.1 %とかなりの程度上昇した。一方、乾めん類は 19 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 8.5 %とかなりの程度低下した。即席めんは 41 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 0.9 %と前年並みとなった。また、マカロニ・スパゲティは 15 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲ 4.0 %とやや低下した。

パン類はわずかに上昇

パン類の生産量は 123 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 1.1 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、食パンの生産量は 60 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.6 %と前年並み、一方、学校給食パンは 2 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.7 %とやや低下した。また、菓子パンは 40 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 4.3 %とやや上昇した。その他パンは 20 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 5.7 %とやや低下した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

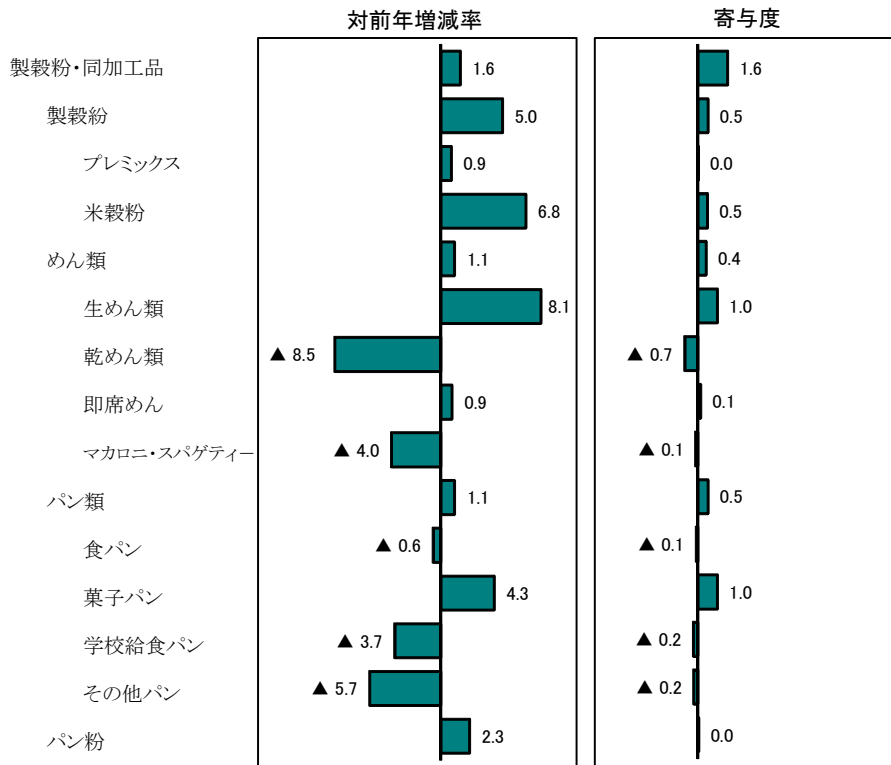


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

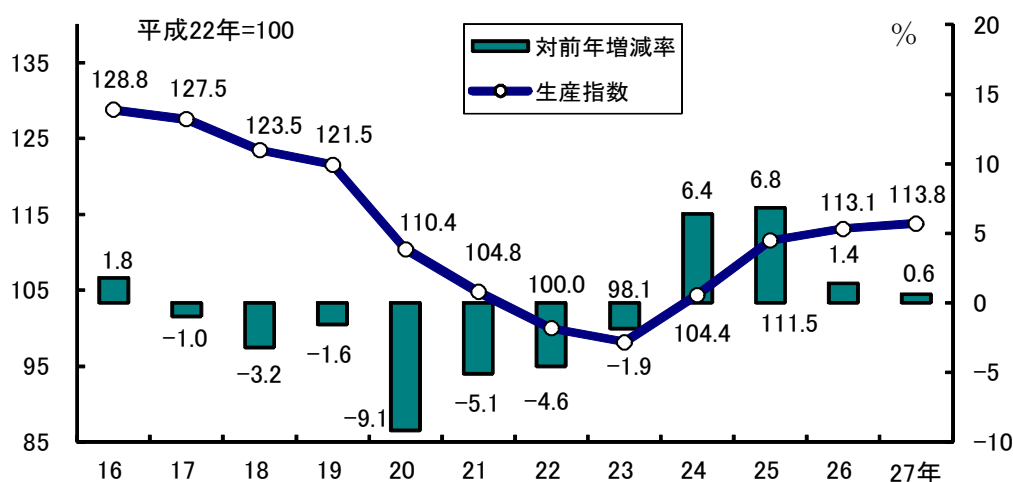
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	103.8	105.5	107.1	0.9	2.2	1.6	1.6	1.6
製穀粉	172.5	100.0	106.4	105.4	110.6	1.1	3.8	▲ 0.9	5.0	0.5
プレミックス	58.6	100.0	95.0	96.4	97.2	3.5	▲ 1.6	1.4	0.9	0.0
米穀粉	113.9	100.0	112.2	110.0	117.5	▲ 0.1	6.4	▲ 2.0	6.8	0.5
めん類	587.0	100.0	107.7	111.7	112.9	▲ 1.5	4.8	3.7	1.1	0.4
生めん類	206.6	100.0	101.4	104.1	112.5	▲ 2.6	3.8	2.7	8.1	1.0
乾めん類	123.5	100.0	105.2	105.2	96.2	4.8	4.4	0.0	▲ 8.5	▲ 0.7
即席めん	221.8	100.0	116.0	123.4	124.6	▲ 3.9	6.1	6.4	0.9	0.1
マカロニ・スパゲティー	35.1	100.0	101.2	104.7	100.5	0.1	2.9	3.5	▲ 4.0	▲ 0.1
パン類	787.4	100.0	100.5	101.0	102.1	2.7	▲ 0.2	0.5	1.1	0.5
食パン	224.3	100.0	103.8	105.6	105.0	0.6	3.1	1.7	▲ 0.6	▲ 0.1
菓子パン	389.5	100.0	102.1	103.0	107.4	5.1	▲ 2.2	0.8	4.3	1.0
学校給食パン	115.2	100.0	87.8	86.1	82.9	1.5	1.4	▲ 1.9	▲ 3.7	▲ 0.2
その他パン	58.4	100.0	101.5	99.4	93.7	▲ 2.0	▲ 1.2	▲ 2.1	▲ 5.7	▲ 0.2
パン粉	30.7	100.0	99.9	102.0	104.4	1.5	1.7	2.2	2.3	0.0

5 食用油・同加工品

平成 27 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 113.8 で、対前年比 0.6 %と前年並みとなった。平成 23 年までは低下傾向で推移し、その後は前年を上昇傾向で推移していたが、平成 27 年は対前年比でほぼ横這いとなっている。

品目別にみると、植物油脂対前年比でわずかに上昇した。一方、加工油脂は、前年並みとなった。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はわずかに上昇、加工油脂は前年並み

植物油脂の生産量は 169 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 1.9 %とわずかに上昇した。これは、健康の効能を訴求した商品の需要拡大が背景にあるとみられる。また、加工油脂の生産量は 53 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 0.2 %と前年並みとなった。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 15 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 0.8 %と前年並みとなったが、ショートニングの生産量は 25 万トンで、生産指数は対前年比 2.3 %とわずかに上昇した。また、食用精製加工油脂は 4 万トンで、生産指数は対前年比▲ 0.3 %と前年並みとなった（生産量の出典は日本マーガリン工業会ホームページより）。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

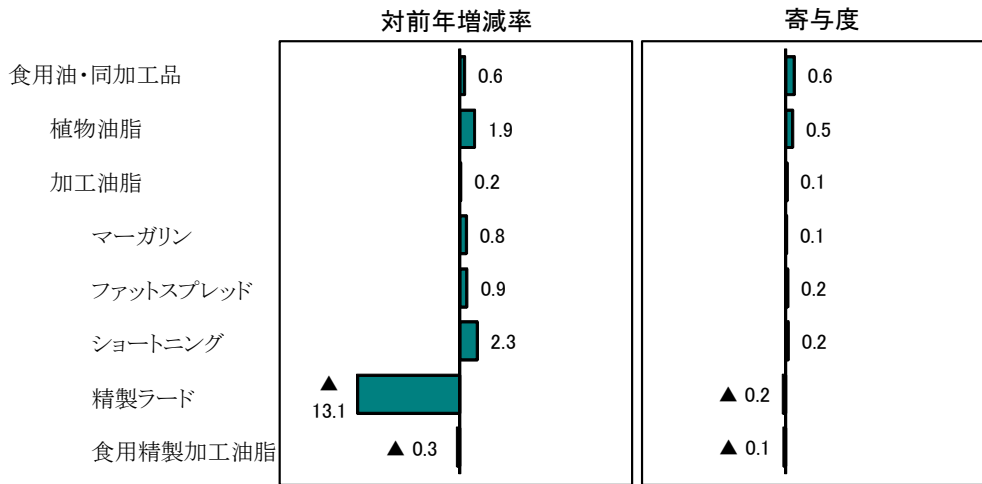


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
食用油・同加工品	360.2	100.0	111.5	113.1	113.8	▲ 4.6	6.8	1.4	0.6	0.6
植物油脂	111.3	100.0	97.8	100.4	102.3	3.5	10.0	2.6	1.9	0.5
加工油脂	248.9	100.0	117.6	118.8	119.0	▲ 7.7	5.7	1.0	0.2	0.1
マーガリン	31.2	100.0	104.2	97.3	98.1	▲ 0.9	4.9	▲ 6.6	0.8	0.1
ファットスプレッド	69.7	100.0	101.0	96.0	96.9	▲ 2.9	▲ 0.0	▲ 5.0	0.9	0.2
ショートニング	26.7	100.0	116.3	119.5	122.2	▲ 1.4	3.7	2.7	2.3	0.2
精製ラード	5.3	100.0	101.1	93.6	81.4	▲ 45.0	▲ 0.1	▲ 7.4	▲ 13.1	▲ 0.2
食用精製加工油脂	115.9	100.0	132.3	139.3	138.8	▲ 10.6	9.4	5.2	▲ 0.3	▲ 0.1

6 砂糖

平成 27 年の砂糖の生産指数（平成 22 年=100、一部推定を含む暫定値）は 96.7 で、対前年比 0.4 % と前年並みとなった。

近年の砂糖の推移についてみると、平成 22 年以降低下傾向で推移していたが、平成 25 年以降ほぼ横這いで推移している。

品目別にみると、グラニュー等及び三温が対前年比でわずかに上昇した。一方、冰糖が大幅に低下し、上白が対前年比でかなり大きく低下し、中白及び角糖がかなりの程度低下し、中双及び液糖はわずかに低下した。また、白双は前年並みとなった。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

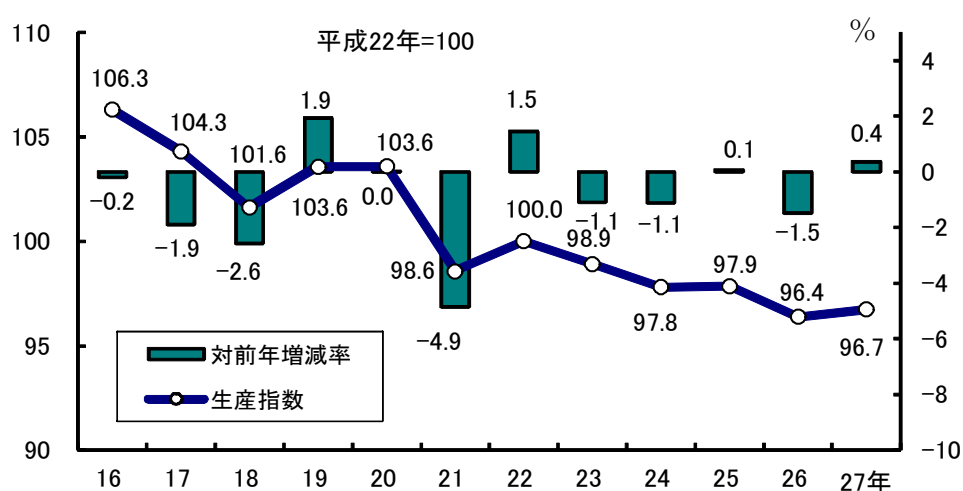


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

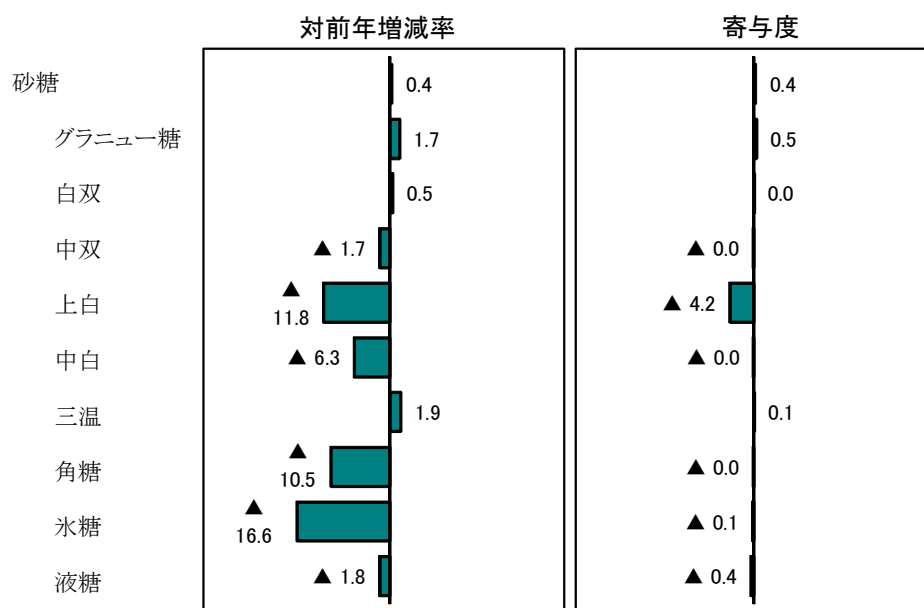


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

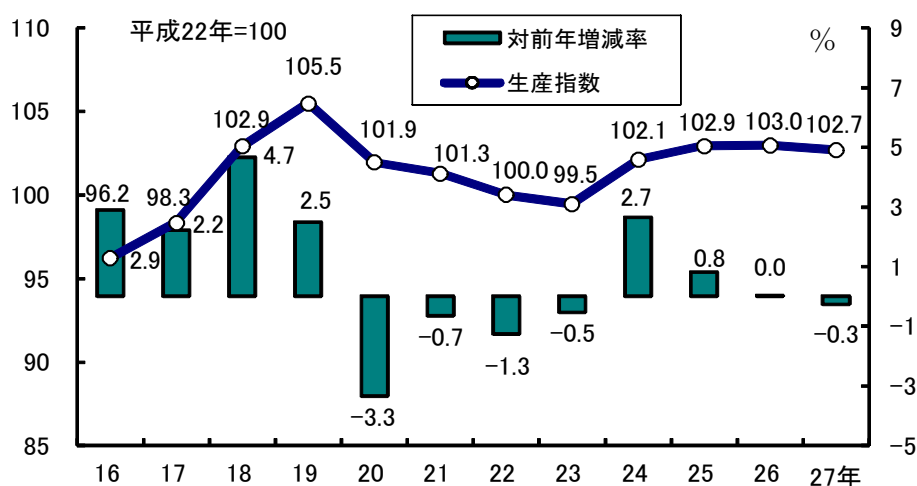
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
砂糖	19.5	100.0	97.9	96.4	96.7	1.5	0.1	▲ 1.5	0.4	0.4
グラニュー糖	5.9	100.0	97.2	94.9	96.6	8.1	0.4	▲ 2.3	1.7	0.5
白双	0.4	100.0	96.4	91.9	92.4	▲ 3.2	4.1	▲ 4.7	0.5	0.0
中双	0.4	100.0	84.4	78.4	77.0	▲ 2.6	▲ 3.5	▲ 7.1	▲ 1.7	▲ 0.0
上白	7.3	100.0	94.5	92.4	81.5	▲ 3.7	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 11.8	▲ 4.2
中白	0.0	100.0	88.3	77.7	72.8	▲ 1.7	8.8	▲ 12.0	▲ 6.3	▲ 0.0
三温	1.0	100.0	96.0	94.0	95.8	▲ 2.8	1.6	▲ 2.1	1.9	0.1
角糖	0.1	100.0	67.3	60.4	54.0	8.7	▲ 4.3	▲ 10.2	▲ 10.5	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	100.6	102.8	85.7	▲ 12.2	▲ 1.0	2.2	▲ 16.6	▲ 0.1
液糖	4.2	100.0	105.9	108.8	106.8	3.1	1.1	2.7	▲ 1.8	▲ 0.4

7 調味料

平成 27 年の調味料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.7 で、対前年比▲ 0.3 %と前年並みとなった。

品目別にみると、みそ、マヨネーズ及びドレッシングは対前年比で前年並みとなった。一方、しょうゆはわずかに低下した。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆはわずかに低下、みそは前年並み

しょうゆの生産量は 78 万 kl で、生産指数は対前年比▲ 1.4 %とわずかに低下した。一方、みそは 46 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 0.1 %と前年並みとなった。

マヨネーズ、ドレッシングはともに前年並み

マヨネーズの生産量は 21 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 0.7 %と前年並みとなった。また、ドレッシングの生産量は 19 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.3 %と前年並みとなった。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

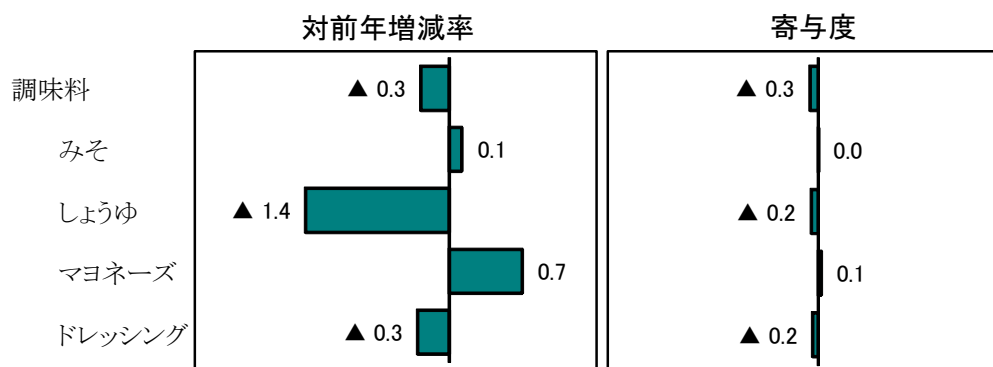


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

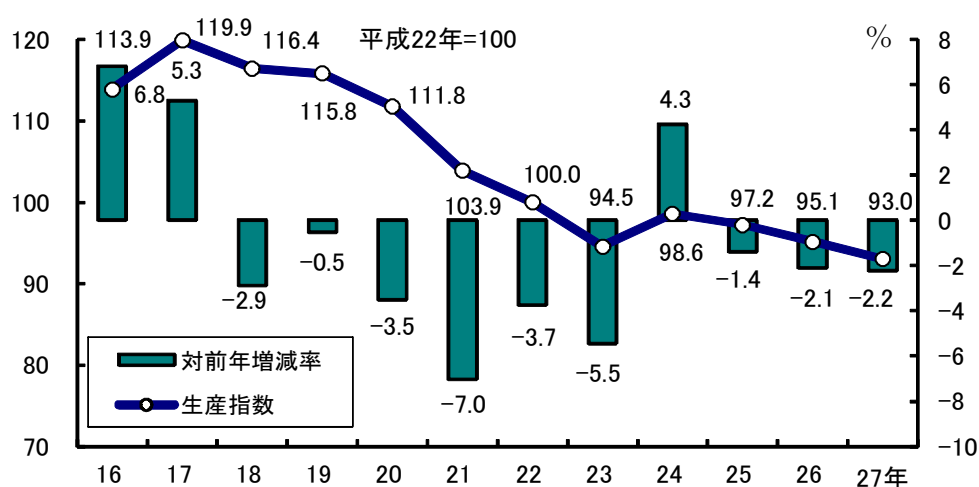
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
調味料	865.0	100.0	102.9	103.0	102.7	▲ 1.3	0.8	0.0	▲ 0.3	▲ 0.3
みそ	83.9	100.0	92.2	99.8	100.0	1.3	▲ 3.7	8.3	0.1	0.0
しょうゆ	152.8	100.0	95.9	95.9	94.6	▲ 1.8	▲ 1.1	0.0	▲ 1.4	▲ 0.2
マヨネーズ	142.9	100.0	102.8	104.4	105.1	▲ 2.3	0.6	1.6	0.7	0.1
ドレッシング	485.4	100.0	107.1	105.3	105.0	▲ 1.2	2.1	▲ 1.6	▲ 0.3	▲ 0.2

8 飲料

平成 27 年の飲料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 93.0 で、対前年比▲ 2.2 %とわずかに低下した。特にトマト飲料の低下の影響が大きくなっている。

品目別にみるとコーヒー・茶系飲料は対前年比で前年並みとなった。一方、果実飲料及びトマト飲料はともにもかなりの程度低下し、炭酸飲料はやや低下した。近年の飲料の推移についてみると、平成 23 年まで低下傾向で推移していたのが、平成 24 年に上昇に転じたが、その後は再び低下傾向で推移している。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料はやや低下、果実飲料はかなりの程度低下

炭酸飲料の生産量は 236 万 8 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 3.4 %とやや低下した。また、果実飲料も生産量が 78 万 8 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 6.9 %とかなりの程度低下した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は 848 万 7 千 kl で、生産指数は対前年比 0.4 %と前年並みとなった。

トマト飲料は大幅に低下

トマト飲料の生産量は 6 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 8.8 %とかなりの程度低下した。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

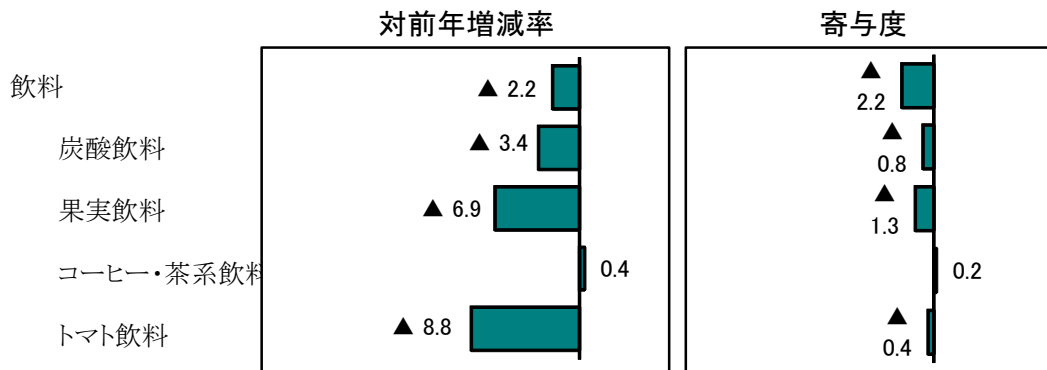


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

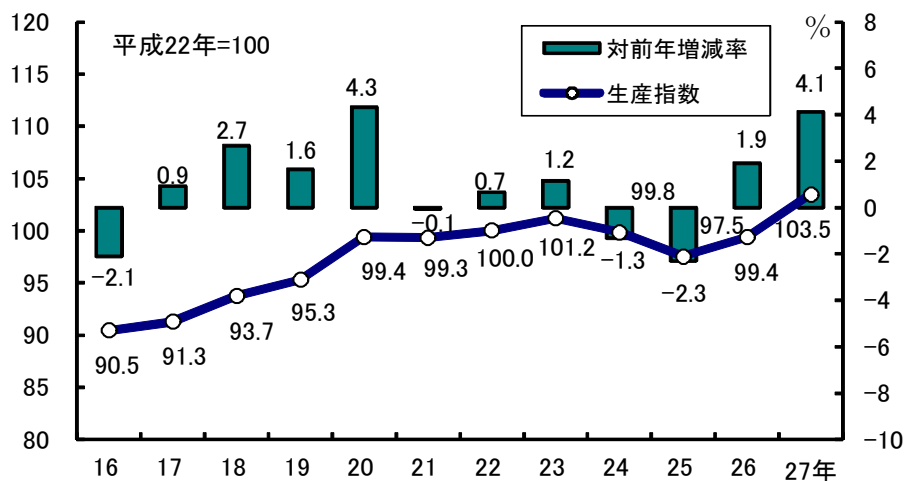
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
飲料	1,214.6	100.0	97.2	95.1	93.0	▲ 3.7	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 2.2
炭酸飲料	261.8	100.0	102.3	98.6	95.2	2.7	1.3	▲ 3.6	▲ 3.4	▲ 0.8
果実飲料	285.5	100.0	77.0	74.7	69.5	▲ 18.0	▲ 5.4	▲ 3.0	▲ 6.9	▲ 1.3
コーヒー・茶系飲料	616.5	100.0	101.8	102.4	102.8	1.2	0.4	0.6	0.4	0.2
トマト飲料	50.7	100.0	128.6	103.9	94.7	2.5	▲ 13.3	▲ 19.2	▲ 8.8	▲ 0.4

9 菓子

平成 27 年の菓子の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 103.5 で、対前年比 4.1 %とやや上昇した。

品目別にみると、ビスケットはやや上昇し、米菓はわずかに上昇した。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはやや上昇、米菓はわずかに上昇

ビスケットの生産量は 25 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 5.9 %とやや上昇した。また、米菓の生産量は 22 万トンで、生産指数は対前年比 1.7 %とわずかに上昇した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

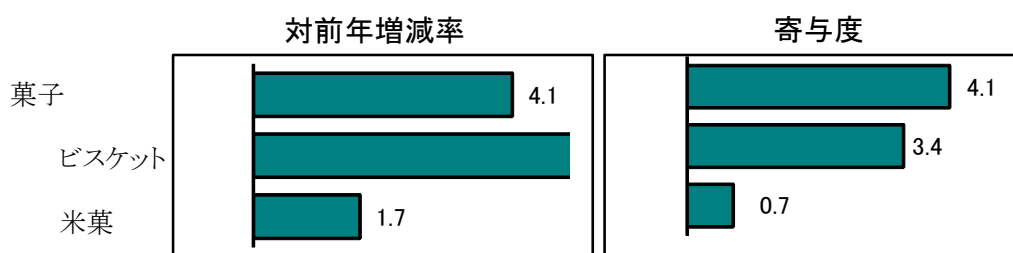


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

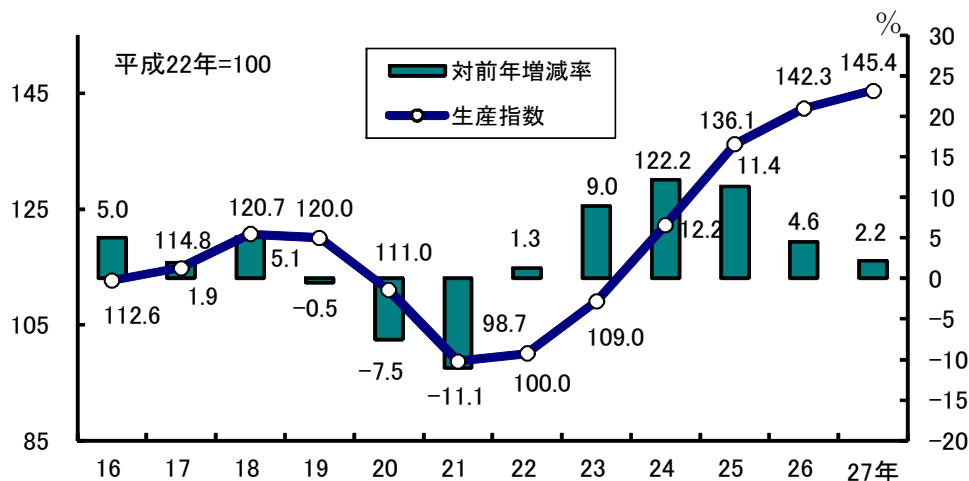
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
菓子	490.4	100.0	97.5	99.4	103.5	0.7	▲ 2.3	1.9	4.1	4.1
ビスケット	274.7	100.0	98.0	101.3	107.3	▲ 0.6	▲ 1.2	3.3	5.9	3.4
米菓	215.7	100.0	96.9	97.0	98.6	2.3	▲ 3.7	0.1	1.7	0.7

10 調理食品

平成27年の調理食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は145.4で、対前年比2.2%とわずかに上昇した。

近年の調理食品の推移についてみると、平成21年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成23年の東日本大震災以降は備蓄需要の高まりから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いていたが、拡大幅は縮小してきている。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はわずかに上昇

加工米飯の生産量は34万9千トンで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに上昇した。特に冷凍米飯の市場が拡大しており、おにぎり、チャーハン、オムレツ等の品揃えの拡充や品質志向型商品開発の取組がみられる。

カレーはかなり大きく低下、その他はやや上昇

調理缶・レトルトの生産量は37万7千トンで、生産指数は対前年比▲1.8%とわずかに低下した。内訳についてみると、カレーの生産量は13万2千トンで、生産指数は対前年比▲13.0%とかなり大きく低下し、一方、その他の生産量は24万4千トンで、生産指数は対前年比5.7%とやや上昇した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

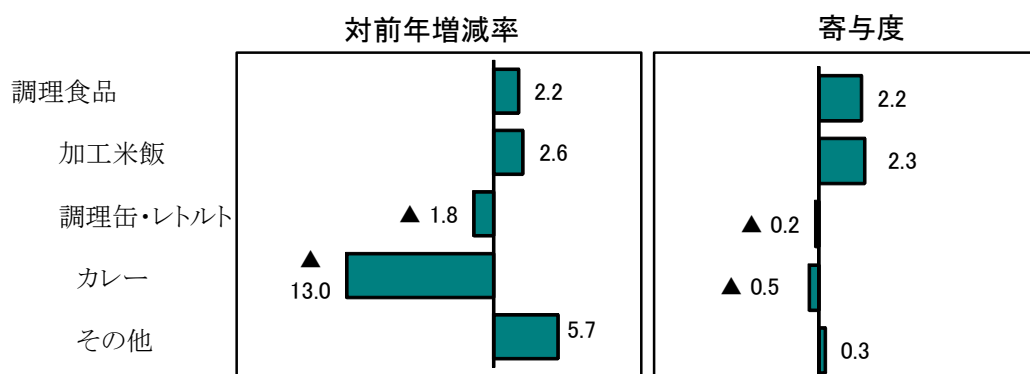


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

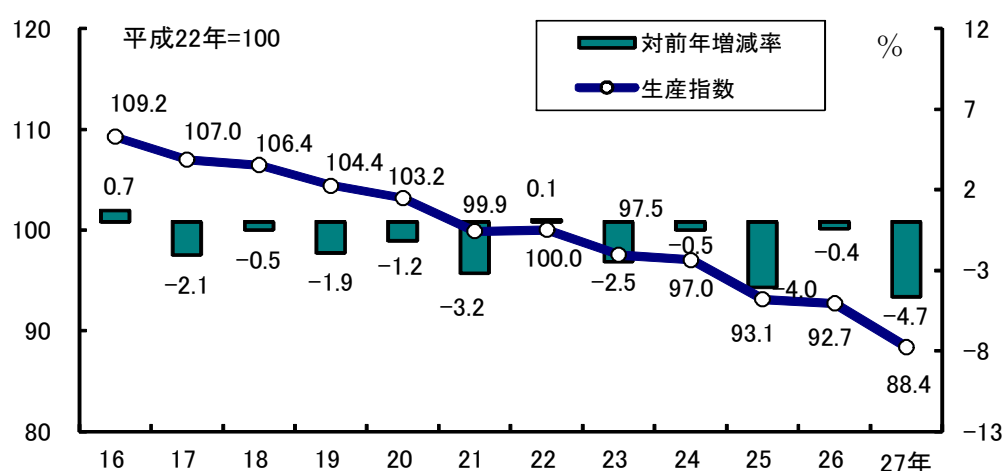
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
調理食品	984.0	100.0	136.1	142.3	145.4	1.3	11.4	4.6	2.2	2.2
加工米飯	848.4	100.0	142.2	149.4	153.3	▲ 11.9	12.7	5.1	2.6	2.3
調理缶・レトルト	135.7	100.0	98.1	98.0	96.3	4.5	0.8	▲ 0.1	▲ 1.8	▲ 0.2
カレー	47.6	100.0	118.0	110.9	96.5	17.8	3.5	▲ 6.0	▲ 13.0	▲ 0.5
その他	88.1	100.0	87.3	91.0	96.2	▲ 1.5	▲ 1.0	4.2	5.7	0.3

1.1 酒類¹⁾

平成27年の酒類の生産指数（平成22年=100、一部推定値を含む）は88.4で、対前年比▲4.7%とやや低下した。特に清酒、合成清酒及び焼酎の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、ウイスキーが対前年比でかなり大きく上昇した。また、スピリッツ類がかなりの程度上昇した。一方、清酒、合成清酒、焼酎及びブランデーは対前年比でかなりの程度低下し、ビール及び雑酒（発泡酒を含む）はやや低下し、果実酒類はわずかに低下している。また、みりん及びリキュール類は前年並みとなっている。

図2-27 酒類の生産指数の推移

ビール及び雑酒はともにやや低下

ビールの生産量は240万1千klで、生産指数は対前年比▲4.0%とやや低下した。雑酒（発泡酒を含む）の生産量も116万4千klで、生産指数は対前年比▲5.4%とやや低下した。その要因として、若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

焼酎はかなりの程度低下、ウイスキーはかなり大きく上昇

焼酎の生産量は73万7千klで、生産指数は対前年比▲6.4%とかなりの程度低下した。一方、ウイスキーの生産量は10万4千klで、生産指数は対前年比13.6%とかなり大きく上昇した。その要因として、テレビドラマがウイスキーブームを牽引したとみられる。

スピリッツ類はかなりの程度上昇、リキュール類は前年並み

スピリッツ類の生産量は42万5千klで、生産指数は対前年比10.4%とかなりの程度上昇した。一方、リキュール類の生産量は174万6千klで、生産指数は対前年比0.3%と前年並みとなった。

¹⁾ 酒類の各品目の生産量は1～11月の累計である。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

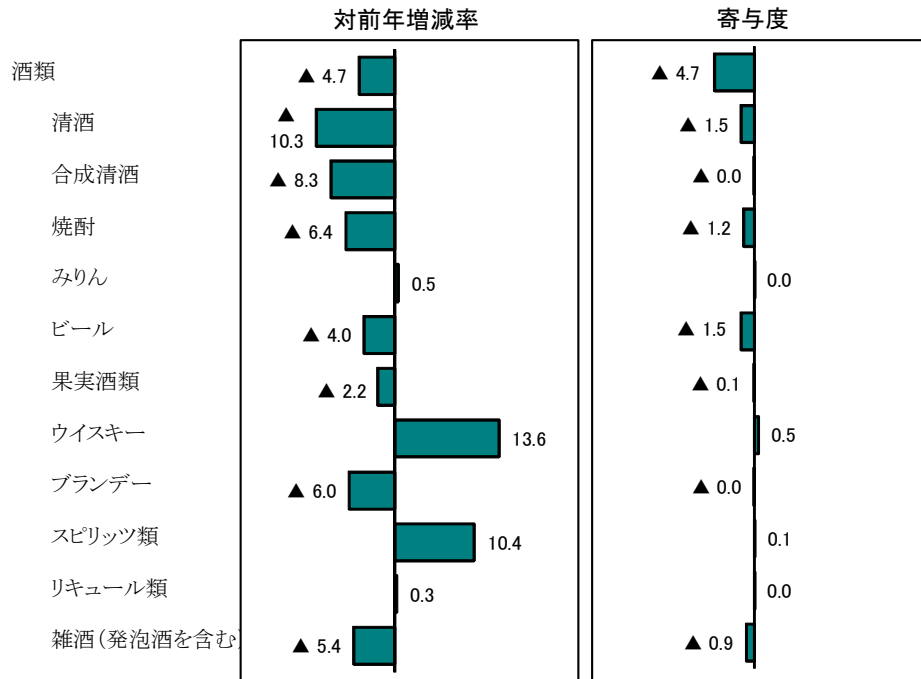


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 27/26年
		22年	25年	26年	27年	22年	25年	26年	27年	
酒類	2,029.9	100.0	93.1	92.7	88.4	0.1	▲ 4.0	▲ 0.4	▲ 4.7	▲ 4.7
清酒	290.7	100.0	97.9	95.5	85.7	▲ 1.7	▲ 2.0	▲ 2.4	▲ 10.3	▲ 1.5
合成清酒	6.0	100.0	82.9	80.3	73.7	2.4	▲ 5.8	▲ 3.1	▲ 8.3	▲ 0.0
焼酎	374.7	100.0	95.6	94.3	88.2	4.3	▲ 2.2	▲ 1.3	▲ 6.4	▲ 1.2
みりん	26.5	100.0	96.2	97.5	98.0	▲ 0.5	▲ 2.8	1.4	0.5	0.0
ビール	773.7	100.0	94.1	93.3	89.5	0.8	▲ 1.4	▲ 0.9	▲ 4.0	▲ 1.5
果実酒類	35.9	100.0	121.9	131.1	128.1	1.4	5.7	7.5	▲ 2.2	▲ 0.1
ウイスキー	61.1	100.0	107.9	122.8	139.4	10.4	7.2	13.8	13.6	0.5
ブランデー	0.1	100.0	91.2	91.6	86.2	22.4	▲ 0.9	0.4	▲ 6.0	▲ 0.0
スピリッツ類	6.4	100.0	122.2	146.6	161.8	8.5	13.0	20.0	10.4	0.1
リキュール類	39.1	100.0	113.0	109.2	109.5	1.3	5.5	▲ 3.3	0.3	0.0
雑酒(発泡酒を含む)	415.6	100.0	78.6	78.0	73.8	▲ 25.1	▲ 7.9	▲ 0.8	▲ 5.4	▲ 0.9